

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

数値化共通項目(全館共通)

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	225	人	A	226.8人×0.989=224.3人	
				283	人		年間開館日数 141日 総観覧者数39,914人	
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	225	人	A	226.8人×0.989=224.3人	
				283	人		年間開館日数 141日 総観覧者数39,914人	
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	639	件	B	679件×0.94=638.3件	
				535	件			
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数(+更新件数)	572,468	件	A	296,615.2件×1.93=572,467.3件	
				1,018,026	件		年間更新件数 113回	
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数(+掲載件数)	103	件	C	H21(100)・H22(102) 101件×1.02=103件	
				75	件		掲載件数75件	
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	2,991,000	円	B	当該年度予算計上額	
				2,858,820	円		観覧料2,788,820円、事業等70,000円	

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

必須項目(全館共通)

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	14	件	A	別紙チェックリストによる	
				14	件			
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる	
				17	件			
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる	
				12	件			
9	施設の活用	施設の利活用	施設の利活用状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

館別独自項目

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠
				達成度			特記事項
1	魅力ある展示	企画展示事業の実施	埼玉の自然情報を発信する企画展の実施状況	3	件	A	別紙チェックリストによる
				3	件		
2	多様な学習支援プログラムの提供	学習支援システムの確立	学習支援体制の充実度	4	件	A	別紙チェックリストによる
				4	件		
3	連携・交流	共催・連携展の実施	共催・連携展の実施状況	9	件	A	別紙チェックリストによる
				9	件		
4	シンクタンク機能	シンクタンク機能の発揮	シンクタンクとしての社会貢献度	8	件	A	別紙チェックリストによる
				8	件		

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元施設との連携事業の強化 8月に客車内で説明を行うミュージアムトレインを秩父鉄道と実施した。また、10月には長瀬町商工会が開催した長瀬ふれあいフェスタで体験型の博物館のブースを設置した。</li> <li>・学校訪問キャラバン事業 休館中の事業の広報や学校での出前事業や体験事業の利用を促進するため、埼玉県を中心に64校を訪問し広報をおこなった。</li> <li>・カエデの森整備事業 地域活性化交付金の補助金を得て、埼玉県に自生するカエデ21種の観察園を園庭に整備した。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元施設との連携事業の強化 秩父地域や長瀬への来訪者に地域自然の情報を提供したり、体験してもらい、博物館のイメージアップを図るとともに、来館者のサービス向上に資することができる。</li> <li>・学校訪問キャラバン事業 今年度127校の学校利用があり、42校に学習支援を行った。また、出前講座や講師派遣などで73件の対応を行い、サービス向上が図れた。</li> <li>・カエデの森整備事業 展示と連携したカエデ観察園の整備を一体的に行うことにより、埼玉県の自然の多様性を示すとともに、博物館のイメージアップを図り、来館者のサービス向上に資することができる。</li> </ul>
事業の成果	

基礎データ

職員数 (学芸員数)	20 (11)	総予算額 (人件費を除く)	18,357,000円	職員一人あたりの県民人口	360,000人
収蔵資料総点数	148,951	事業経費 (上記の内数)	6,282,000円	利用者一人あたりのコスト (平成22年度)	170円
平成22年度 収集資料点数	3,269	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	2,991,000円 (2,813,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成22年度)	0.78%

(注)平成23年4月1日現在の埼玉県推計人口 7,198,706 人

# 平成23年 博物館施設 総合評価

施設名 自然の博物館

	A評価	B評価	C評価
数値化共通項目	3	2	1
必須項目	9	0	0
館別独自項目	4	0	0
総合評価	93%【53点÷(19項目×3点)×100】		

## 自己評価総括

評価	<p>数値化共通項目では、A評価が3項目、B評価が2項目、C評価が1項目であった。必須項目(全館共通項目)や独自項目はほぼ全項目で目標を達成している。今年度は大規模改修工事により9月から休館している。入館者数が減少する冬季が休館のため、入館者数が過大に評価されている可能性がある。一方、「年間リファレンス件数」、「対マスコミ情報発信件数」、「観覧料および事業等収入額」では、休館が数値の減少に影響していると考えられる。</p>
課題	<p>2011年9月から2012年10月まで休館をしているが、この間は積極的に共催展や野外での事業を実施している。これらの事業を周知するため、多様な手段を用いての広報が課題である。</p>
対応の方向	<p>来年度は10月に博物館の再オープンがあるため、ポスターやチラシなどを用いた広報だけでなく、マスコミ・ミニコミなどへの情報提供を積極的におこなう。また、インターネットの利用が多いので積極的にwebを用いての情報提供をおこなう。さらには、必須項目や独自項目は今後も目標を達成を維持できるように、職員全体として意思統一を図る。</p>

## 評価委員総括

評価小委員コメント	<p>大規模改修工事中であり、実数による評価は控えておきたい。            自然科学分野の博物館として、資料の収集・保管と活用は最大のミッションと考えている。たゆまぬ調査と研究の成果を展示やweb、その他の媒体を使って幅広く情報発信することに努めてもらいたい。地元団体や施設との連携事業、県内博物館施設との共催展の開催、学校・生涯学習機関への支援等をより充実させることにより、県立自然の博物館の機能と特性をさらにアピールしていく必要がある。</p>
-----------	---